

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第173号
令和3年5月号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開所

いわて被災者支援センター 開所

令和3年4月27日(火)、岩手県では、東日本大震災津波の被災者の生活再建を支援する「いわて被災者支援センター」を釜石市に開所しました。

センターでは、専門家(弁護士、ファイナンシャル・プランナー)や関係機関(市町村、社会福祉協議会など)と連携して、暮らしやお金の悩みなど、被災者の状況に応じた個別支援計画を作成し、伴走型の支援を行っています。また、盛岡市にもサブセンターを設置し、内陸や県外避難者の皆様からのご相談を受け付けています。

このほか、沿岸4地区(宮古、釜石、大船渡、陸前高田)で、弁護士の定期相談会(無料)を実施しています。お困りごとがありましたら、センターまでお気軽にご相談ください。

■問い合わせ

岩手県復興防災部復興くらし再建課
☎ 019-629-6930



専門家とのミーティングの様子

釜石市
KAMAISHI

いわて被災者支援センター

場所：岩手県釜石市大町2-4-7 トレジャービル1階
☎ 0193-30-1034 ㊟ 080-9634-6650

盛岡サブセンター

場所：岩手県盛岡市材木町3-5 ☎ 019-601-7640

受付：月曜日～金曜日 9:00～17:00
(土日祝日、12/29～1/3を除く)

いわて被災者支援センターについてはこちら➔

※当センターは、岩手県からの委託により認定特定非営利活動法人イングルいわてが運営しています。



育成

いわて水産アカデミー 第3期生が入講

令和3年4月12日(月)、本県の漁業を担う人材の育成を目的とした「いわて水産アカデミー」の第3期生の入講式が、釜石市の岩手県水産技術センターで行われました。

同アカデミーは、県内の漁業関係団体や市町村、県などで構成する「いわて水産アカデミー運営協議会」が運営し、令和3年度は、20代～40代の7人が入講しました。顔ぶれは若手漁業者や元会社員などさまざまで、同日は欠席しましたが開講以来初めて女性も1人入講しました。

7人は、今後1年間、集合研修で知識や技術の習得に励みながら、漁業就業を希望する市町村での実践研修に取り組みます。

平成31年4月に開始した同アカデミーでは、これまでに13人が修了し、全員が県内で漁業に就業しています。

■問い合わせ 岩手県農林水産部水産振興課 ☎ 019-629-5806



令和3年度
いわて水産アカデミー第3期生入講式
漁業者として成功を目指すアカデミー第3期生

復興庁 岩手復興局 本格始動

復興庁岩手復興局は、東日本大震災津波の被災地に密着し、よりきめ細やかに被災者ニーズに対応しながら、心のケアなどの被災者支援や、産業やなりわいの振興などに取り組むため、令和3年4月1日から本局を釜石市に移転し、5月6日から本格的に業務を開始しました。

■問い合わせ 復興庁岩手復興局(岩手県釜石市松原町3丁目10-22 小澤ビル4階) ☎ 0193-27-5331

オープン

道の駅たのはた「思惟の風」
グランドオープン田野畑村
TANOHATA

式典でのテープカットの様子(写真提供: 田野畑村)

令和3年4月22日(木)、移転リニューアルした「道の駅たのはた」(愛称「思惟の風」)がグランドオープンしました。

同日行われた式典には、関係者約80人が出席し、テープカットでグランドオープンや道の駅の登録25周年を祝ったほか、田野畑中学校の生徒による商品販売等も行われ、産直や食堂にもぎわいを見せました。

車中泊専用駐車場や古民家を改築した宿泊施設も併設しているほか、非常用発電機や災害用トイレなども備え、村の防災拠点としての役割も担います。地域住民と観光客の新たな交流等の促進が期待されています。

■問い合わせ

一般社団法人 思惟の風

☎ 0194-32-3555

道の駅たのはた「思惟の風」

についてはこちら➔



オープン

「陸前高田オーガニックランド」本格開業

陸前高田市
RIKUZENNTAKATA

令和3年4月29日(木)、陸前高田市気仙町今泉北地区に整備が進む体験型の農業テーマパーク「陸前高田オーガニックランド」の「モデルエリア」(3.3ha)が本格開業しました。

陸前高田市は、地域の活性化と循環型社会の構築等を目指し、オーガニックランドの整備を官民連携事業として推進しており、今回、陸前高田ワタミオーガニックランド共同企業体により開業した「モデルエリア」では、県産食材を使用したバーベキューや野菜の収穫体験もできます。

同パークは、23haの敷地に今後20年かけてハウス・圃場や野外音楽堂などの整備を進めていく計画です。東日本大震災津波の浸水エリアを有効活用しながら、新たなにぎわいの創出が期待されます。

■問い合わせ 陸前高田市地域振興部政課

☎ 0192-54-2111

陸前高田オーガニックランドについてはこちら➔



野菜の収穫施設体験内部(写真提供: ワタミオーガニックランド(株))

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和3年4月25日(日)、東日本大震災津波伝承館近くの陸前高田市の高田松原で、同市のNPO法人・高田松原を守る会(鈴木善久理事長)が主催する「再生植樹祭」が行われました。

かつて、国の名勝にも指定された白砂青松の高田松原には、約7万本とも言われる松林が広がっていました。その後、復興のシンボルとなった「奇跡の一本松」を残して流失し、岩手県や同会により、4万本を目指し、再生に向けた植樹が進められてきました。

この日、新型コロナウイルス感染症の影響により2年ぶりに開催された植樹祭には、市内外から家族連れら幅広い世代の約300人が参加し、各々が高田松原再生への願いを込めながら、高さ50センチほどのクロマツの苗木を植樹しました。また、5月18日(火)には、岩手県立高田高等学校の生徒により、残る250本が植樹され、当初計画の4万本に達しました。

これまでに植樹された苗木が育ち、高田松原が元の姿を取り戻すためには、50年以上の年月が必要とも言われています。

高田松原津波復興祈念公園を訪れる多くの方々に、長く愛され、親しまれる松原の再生が期待されます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館 ☎ 0192-47-4455



植樹の様子



再生が進む高田松原

オープン

おおつち海の勉強室 開館

大槌町
OTSUCHI

令和3年4月18日(日)、大槌町に「おおつち海の勉強室」が開館しました。東日本大震災津波で被災し、平成30年に大槌町内の高台に移転した東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター旧研究棟の跡地に、研究者と地域の交流の場として建てられました。

勉強室には、カメの仲間で、世界最大種のオサガメの子の剥製や、大槌湾の生物の標本などが紹介され、7月中旬頃からは、大槌湾に来遊するウミガメの屋外水槽での展示も予定されています。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、見学希望者は同センターに事前連絡の上、ご来館ください。

■問い合わせ

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター
住所/岩手県上閉伊郡大槌町赤浜 1-19-18
☎ 0193-42-5611 HPはこちら➡



内部の展示の様子
(写真提供: おおつち海の勉強室)



出版

被災者支援の活動を書籍化

全国
ALL AREA

岩手県社会福祉協議会では、『岩手県における生活支援相談員の活動と地域福祉 東日本大震災からの10年「誰一人、独りぼっちにしない」』を、令和3年3月に発刊しました。

書籍は、B5判290ページの2部構成で、第1部は10年間の実践、第2部は組織や活動のノウハウをQ&A形式などでまとめています。

試行錯誤しながら被災者の生活再建やコミュニティ形成を支えてきた10年間の実践を、災害公営住宅でのサロン立ち上げなど、具体例を挙げて紹介しながら、今後の災害対応等に生かすことができる教訓を伝えています。

県内書店や岩手県社会福祉協議会、インターネットで発売中です。ぜひお手に取ってみてください。

■問い合わせ

岩手県社会福祉協議会
☎ 019-637-4421



発刊した書籍の表紙
(写真提供: 岩手県社会福祉協議会)



さんりくイベント情報

令和3年度 第1回いわて復興未来塾
～沿岸報告会～ 開催釜石市
KAMAISHI宮古市
MIYAKO

岩手県内の産学官の連携組織「いわて未来づくり機構」では、令和3年度第1回目の「いわて復興未来塾」を開催します。

開催日 令和3年7月4日(日)

時間・場所

10:20～11:40

●復興現場見学会: 三陸鉄道の震災学習列車(鶏住居駅～宮古駅区間) 乗車

【解説】三陸鉄道(株) 旅客営業課長 山野目 真氏

13:30～15:00

●事例報告会 ～震災10年。なりわいの再生と挑戦～

【会場】宮古市地域創生センター(うみマチひろば) 4階多目的ホール

事例発表			司会
			
①株式会社尾半ホールディングス 専務取締役 間瀬 慶蔵氏	②浄土ヶ浜旅館 女将 山根 千春氏	③宮古市産業振興部 水産課 課長 佐々木 勝利氏	みやこハーバーラジオ 放送担当室長 箱石 文彦氏

■視聴方法

事例報告会の模様は、岩手県公式インターネット番組・ニコニコ動画 生放送「いわて希望チャンネル」でご視聴ください。
(※現地参加者の募集は終了しました。)

■問い合わせ

いわて未来づくり機構(岩手県復興防災部復興推進課)
☎ 019-629-6945



いわて希望チャンネルはこちら➡

※新型コロナウイルス感染症の状況により、内容を変更する場合があります。

「りあすぱーく」開店

盛岡市
MORIOKA

令和3年3月11日(木)、岩手県の沿岸12市町村の物産や被災者の方々の手仕事品を販売する店舗「りあすぱーく」が、盛岡市にオープンしました。

盛岡市内の市民団体などで組織する「もりおか復興支援ネットワーク」が運営しており、沿岸部の魅力あふれる水産加工品や手工芸品など約500点が販売されています。沿岸の食材を使ったソフトクリームなどが食べられる飲食スペースもありますので、お近くにお越しの際は、ぜひ、足を運んでみてください。

場 所 岩手県盛岡市内丸3-46
盛岡市役所内丸分庁舎1階

営業時間 10:00～18:30

定休日 年末年始(12/29～1/3)

問い合わせ もりおか復興支援ネットワーク
(主管団体 一般社団法人SAVE IWATE)
☎ 019-681-1577



店内の様子(写真提供: りあすぱーく)

「りあすぱーく」についてはこちら➡





3.11東日本大震災 遠野市後方 支援資料館

「忘れてはならない、
忘れさせてはならない」
活動を伝承しています。

「3.11 東日本大震災 遠野市後方支援資料館」は、東日本大震災津波において、遠野市が官民一体で取り組んだ沿岸被災地後方支援活動に係る記録資料を多数展示しており、震災伝承ネットワーク協議会震災伝承施設に登録されています。

令和3年3月7日(日)にリニューアルし、震災発生当時の様子が分かる映像コーナーが新たに設置されました。年中無休で一般公開しており、入場無料でご覧いただけます。

場 所 岩手県遠野市青笹町糠前10地割46番地 (遠野市総合防災センター敷地内)
開 放 日 年中無休 午前9:00～午後5:00
(災害時など緊急を要するときは閉館する場合があります。)

■問い合わせ 遠野市総務企画部防災危機管理課 ☎ 0198-62-2111



施設外観 (写真提供：遠野市)



展示の様子 (写真提供：遠野市)



いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介し、第119回は千代川らんさんをご紹介します。



～ 三陸に来た方を笑顔にする !! ～

PROFILE

山田町出身。県立宮古高等学校を経て岩手県立大学宮古短期大学部に進学する。大学時代はボランティアサークルやNPO法人「みやっこベース」の活動に参加し、地域の盛り上げに取り組む。平成31年4月、三陸鉄道株式会社に入社。旅客営業部で事務職を担当している。

地元に残り、地域の力になりたい

千代川さんは震災当時、山田南小学校の6年生でした。校内で謝恩会の準備をしている時に大きな揺れに遭遇します。自宅は大規模半壊に見舞われ、3か月にわたって避難所生活を送り、その後も仮設住宅での暮らしが8年続きました。

大学時代には、市内の有志が集まって発足したゲストハウスプロジェクトに学生リーダーとして加わり、ゲストハウス完成に向けてクラウドファンディングに挑戦しました。SNSでの積極的な情報発信が実り、目標金額を達成することができました。

卒業後は三陸鉄道株式会社に入社しました。千代川さんは、「地元に残るか離れるか悩みました。でも、この街が好きですし、リアス線開業後

の一期生として、節目の年に関わることができるので、地域の力になりたいと思い、地元の三陸鉄道への就職を決めました。」と振り返ります。

感謝の気持ちを発信

令和3年3月11日には、被災地の歩みを伝える「震災学習列車」に乗車し、ガイドの一人として自身の体験談を語りました。また、6月に予定される復興五輪の聖火リレーのルートのひとつに三陸鉄道が組み込まれています。

千代川さんは、「震災の体験談をお話する機会があれば、これからも伝えていきたいです。そして三陸鉄道は、震災や台風被害の際に多くのご支援をいただき現在がありますので、聖火リレーを通して、感謝の気持ちを発信していけたらと思います。」と力を込めます。

岩手県の被害状況

令和3年4月30日現在

- 人的被害 死者：5,145人 (余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,111人
- 建物被害 (住家のみ、全半壊) 26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

令和3年4月30日現在

- 義援金受付状況 約187億7550万円(98,078件)
- 寄附金受付状況 約202億4207万円(10,922件)
- いわての学び希望基金(※)受付状況 約103億3558万円(25,614件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

[いわて震災津波アーカイブ](#)

[検索](#)



いわて復興だより 第173号

令和3年5月26日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・印刷／永代印刷株式会社

次回は令和3年6月24日の発行を予定しています。